

○委員長 (臼井正人君) よく聞いておいてください。

ほかにありますか。

宇野委員。

○宇野 裕委員 大きな意味では、1 問なんですけども、項目的には 6 項目ぐらいになりますので、ちょっと長くなりますが、質問させていただきたいと思います。

委員長の了解をいただきまして、お手元に、委員の皆様方に、「教育委員会委員候補としての考え、平成 21 年 4 月 10 日、鬼澤佳弘氏作成」ということで、今回鬼澤教育長が教育長になる前に、まず前提に教育委員になることについて、知事から任命を受けて、そして議会、我々、同意をさせていただいたわけでありまして。そのときに、我々議員にこの文書が配られまして、すばらしいお考えの方だなと、私は個人的に思いました。ぜひこういう方に教育委員になっていただいて、千葉県の教育をよりよいものにしていただきたいという思いで賛成をさせていただいた 1 人でありまして。

そういうことで、ある意味、鬼澤教育長がこれをつくられたということで、鬼澤教育長の、この千葉県行政のマニフェストみたいな自分の思いが書いてありますので、先ほどの知事のマニフェストとの整合性は、また次の議論にさせていただいて、まずこの教育委員の候補としての考えをベースに 6 問ぐらいさせていただきたいと思います。時間の関係で、できるだけ短く質問をさせていただきたいんですが、本当は全部読みたいんですけども、省略をして、簡明に質問したいと思います。

まず 1 点、上から 6 行目の『『人間力』にまつところが大きいと言えます』という、この人間力という言葉はいろいろなところで聞いたこともあるんですけども、教育長の考えるこの人間力というのは、どのような定義というか、ものを指すのか、それを教育長なりのお考えで結構ですので、教えていただきたい。

それから、この 9 行目のところに、いろいろ教育長の思いが語られているんですけども、私なりにこの文章の中でこのくだりは、教育長の現在の千葉県の教育に対する重点課題として、1 つとして、体力の向上、そして 2 つとして、正義感や徳性の涵養、3 つとして、確かな学力の育成、さらには 4 つとして、特別支援教育の充実というものを教育長として思いをここにうたってあるというふうに私は思いました。したがって、この 4 点について、現状認識を教えていただきたいというふうに思います。

そして 3 点目は、その現状認識の上で、今後それぞれの課題克服のために、具体的にどのように、現時点において取り組んでいこうとされているのか、その点をお聞かせを願いたいと思います。

それから、16 行目なんですけど、「千葉県のもつ教育力、文化力」というようなくだりがありますが、この千葉県のもつ教育力、文化力というのは、鬼澤教育長の千葉県独特の、そういう他県にはない教育力、文化力があるというような思いの中で書かれているように私は思いますが、その点について、どのようなものを指していらっしゃるのか御説明をしていただきたいと思います。

それから、その下の 18 行目なんですけども、「各学校の教職員が自信と誇りを持ち、その力量を十分発揮できる条件整備と支援に努めることが必要であると考えます」ということが書いてございます。こういう問題意識を教育長が持たれているということは、現状の教職員の現場というか、教育現場の環境整備、そういう条件が少し不十分なのかなと、そういう問題意識から書かれていると思いますけども、この条件整備と支援ということを取り組むという姿勢、持っていらっしゃるということで、他県と比べてどういう点が我が県はおくれているのか、そういう認識をお伺いさせていただきたいと思います。

また、そういうものを仮にこれから条件整備、また支援等をするとすれば、どのような予算が新しく必要になってくるのか。ざっくりで結構ですので、わかる範囲で結構ですので、その点を教えていただければありがたいと思います。

最後に、6 点目ですが、19 行目、「私は、これからは物の豊かさから心の豊かさが求められる時代であるとの思いのもと」云々と書いてありますが、私も同感であります。その心の豊かさというのは、人それぞれいろいろ考え方があると思うんですけども、教育長の心の豊かさというのを、できればわかりやすく 1 つの事例等を挙げていただいて、こういう場面で人が対応したときに、こういうものを心の豊かさと感じるとか、そういうものがもしあれば、御説明をしていただきたいと思います。

以上 6 点であります。

○委員長（臼井正人君） 鬼澤教育長。

○説明者（鬼澤教育長） 私の教育委員就任に当たりましたの考えについてのお尋ねということでございますので、お尋ね、何点かに、多岐にわたりましたが、一括して、できるだけお尋ねに沿う形でお答えさせていただきたいと思っておりますけども。

私は、人間力という言葉を使いましたのは、この文書の中では、もちろん社会の安定であるとか、あるいは豊かな未来を築く、そのかぎとして挙げさせていただいたものですが、実際その内容を深く吟味して使った言葉ではなかったんですけども、その前段でちょっと触れさせていただいていますように、やはり人の英知こそが経済や社会、あるいは自然などのさまざまな試練や苦境、そして矛盾などを克服して、より安全で安心できる、また豊かさとか公正さ、こういったものを大事にする社会を実現する、そういう推進

力になるのではないかと、そういうつもりで使わせていただいたものでございます。

結局は、人こそが未来を切り開き、またより、それぞれ幸福を目指して、地域づくり、国づくりをしていく。したがって、人材を育てる教育こそが未来を切り開く上で基本となるものだと、そういう思いでございます。やはりこういう教育を軽視する社会は逆に衰退を免れないのではないかと、そういうふうに考えておるところでございます。

その内容について少し具体的に申し上げれば、これはいろんなところでももちろん言われていることでございますけれども、例えばその社会の一員としてのマナーあるいはルールを守ってよりよく生きようとする自覚であったり、豊かな心であったり、もちろんみずから学ぶ力、それを支える健康や体力、自分の生まれ育った郷土への愛着、そういった社会の中で強く生きていくための力であるというふうに考えております。

また、本県の現状認識につきましては、これはちょっと御質問と前後してしまうかもしれませんが、千葉県の特徴教育力、文化力ということで、これまで本議会、あるいは本日の午前中の審議におきましても、関連する御質問の中で触れさせていただきましたけれども、千葉県はこの海に囲まれた豊かな自然であるとか、温暖な気候、あるいはバランスのとれた産業など、子供たちがおおらかに育つ、そういう環境に恵まれていると思っております。また、首都に隣接しておりますことから、トップレベルの芸術、文化、こういうものにも接する機会に恵まれていると思っております。

子供たちの体力、運動能力、あるいはオーケストラが全国トップレベルであること、あるいは読書好きが多い、こういう伸びるための基盤となる能力が備わっている、そういうすぐれた面があるかと思っております。こういった環境、特徴を生かしながら、子供たちがみずから未来を切り開いていける、そういう人間づくりをやっていくということが大事だという思いでございます。

もちろん課題もあるわけでございまして、午前中の石井委員の御質問にもお答えしましたように、学力につきましては、全国平均レベルで、これをさらに伸ばしていく必要はあると思っておりますけれども、特に活用する能力、これを重視しながら、子供たち、あるいは教員が目標等を検証しながら指導できる、そういう努力をしていかなきゃいけないと思えますし、生徒指導上では、いじめのこの認知件数が全国平均より多目であるというような課題もありますし、教員につきましては、大量退職時代を迎えまして、これは千葉県だけということではございませんけれども、年齢構成が大きく変わろうとしているわけで、若手の教員のモデルとなる中堅教員が手薄ではないかと、こういう課題があります。もちろん施設面では、校舎の耐震化率が低いということや特別支援学校の校舎、教室の過密化、これも御指摘のとおりだというふうに認識しております。

私は、やはり教育の基本は知・徳・体、調和のとれた人間を育てると、そのような人間として一人一人が社会でたくましく生きる力を育てることであると思っておりますが、その基盤となる体力につきましては、先ほど述べたような現状ですので、ある意味じゃ大変優位に立っているんだと思えます。これを生かしながら、さらに伸ばし、さらに地域と連携

した道徳教育、確かな学力を培っていきたいと考えてございます。

特別支援教育につきましては、特殊教育センター、これは今の特別支援の前身のときでございすけれども、特殊教育センターを全国に先駆けて設置した伝統を本県は持っておりますので、それを生かしながら、当面過密化対策、あるいは職業的自立に向けた教育をしっかりと進めていきたいと考えているところでございます。

また、各学校の教職員が自信と誇りを持ち、その力量を十分発揮できるということを申し述べました。これにつきましては、やはり教育は人なりとよく言われるとおり、やはり教員の力が教育の質の向上の決め手であるという原点をやはり確認しなきゃいけないんだと思っております。そのためには、教師が一人一人がその持てる能力、これをしっかりと発揮できる、存分に発揮できる、そのための私は条件整備を進めていこうと、教育委員会としてはそれが役割ではないかと思えます。もちろんその条件整備の中には、人的な整備もありましょうし、物的な整備、これも先ほど来申し上げた課題と連動する形で、当然あると思えます。これの支援、もちろんその力量を高めるための研修も大事でございすけれども、それを全体だとどのぐらいの予算がかかるかということについては、なかなかちょっと今の段階で申し上げることは難しゅうございすけれども、もちろん県全体の財政状況もございすが、教育について、やはり目を向けて、光を当てて、それで現場がやはり元気が出るということが何よりも大事だと思えます。そういう意味での教育施策をできるだけ進めていきたいと思っているところでございます。

最後に、私が教育、文化、スポーツなどに係る行政を仕事として選んだ動機にかかわるような御質問もあったわけでございますけれども、やはりこの物質的、経済的な豊かさから心の豊かさを求める時代と言われて、これはもう久しいわけでございます。その心の豊かさ、私自身が考えるところでございます。人によってそれは確かにいろんな考え方があろうと思えますけれども、例示的に申し上げれば、やはり家族のきずな、人のきずながしっかりしていることが基本になろうかと思えますし、また、人間、論理的思考だけじゃない、左脳だけじゃない、右脳もあるんだというふうに言われますけども、やはり芸術、文化、そういったものに触れて感動したりできる機会が充実しているようなこと、また自己実現を目指すことのできる社会、学習の成果が活かされる生涯学習社会、こういう実現がやはり心豊かな時代を実現するかぎだというふうに、また重要であるというふうに考えているところでございます。

ちょっと御質問には全部触れられない、お答えできなかったかもしれませんが、この考えを若干補足させて述べさせていただきました。どうぞ今後ともよろしく御指導のほどお願い申し上げます。ありがとうございました。

○委員長（臼井正人君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 ありがとうございます。本当に丁寧に一つ一つお答えをさせていただきまして、本当にありがとうございました。

今お答えをいただいて、この文章の裏にある教育長のお人柄とか、教育にかける情熱等が伝わってきたような気がいたしました。ぜひこれから頑張っていたきたいというふうに思う次第であります。

先ほどのマニフェストとの整合性のことについては、また別の機会にお尋ねをしたいと思っておりますが、基本的には森田知事のマニフェストと教育長のこの書かれた文章はそれほど差はないように、私はそういうふうに解釈いたしますので、ぜひ頑張っていたきたいというふうに思う次第であります。

1点だけ、最後御質問させていただきたいんですけども、先ほどの千葉県の教育を元気にする有識者会議に、ぜひこの文章を有識者の方に読んでいただいて、やはり認識の一致を持っていただいて、教育長の考えている千葉県を元気にする方策の1つだと私は思っておりますので、そこから話し合いを進めていただけるようにしていただきたいのと、その点についてのお考えをちょっとお話をさせていただきたいと思っております。

○委員長（臼井正人君） 鬼澤教育長。

○説明者（鬼澤教育長） 有識者会議につきましては、当然知事、そして教育委員会、連携のもとに進めさせていただきませんが、私個人だけではなく、教育委員会全体の考え方ということできちっとお伝えはさせていただきたいと思っておりますが、個人的にはこういうことを委員の方々に、誤解のないように、まず出発点として、こういう方向性についても含めて議論いただけるようにお話しさせていただきたいと思っております。

以上です。

○委員長（臼井正人君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 やはり一番上に「教育、すなわち人づくりは国づくりの基本であり」というふうに書いてありますので、やはり森田カラーと同時に、鬼澤カラーも十分出しているように、自信を持って、これから教育行政を引っ張っていただきたいというふうに、私の要望であります。

以上です。